

ブランドマークの「のぼり」で利用客掘り起こし

神奈川県公衆浴場業生活衛生同業組合

公衆浴場は家庭の内風呂の普及等で利用客が減少し、厳しい環境下にある。そこで、販売促進のためにサービスクリエーション、紹介ホームページの制作に続き、入り口に立てるのぼり制作。

背景と目的

公衆浴場の利用者の減少、公衆浴場そのものの減少が続く。その要因は家庭の内風呂の普及によることが大きい。他に、サウナやスパー銭湯など競合の登場も影響している。また、マンション、ビルなど高層の建築物が増え、公衆浴場の位置が利用者にわからなくなっていることにも要因がある。その克服のため、さらには潜在顧客の掘り起こし、利用客数の向上を目的に公衆浴場の入り口に目印になるのぼりを立て、公衆浴場そのものを地域住民に浸透させること

にした。

事業・活動の内容

のぼりは人の目につきやすく、親しみやすいデザインにし、1000本を製作し、組合員に配り、その設置を徹底させた。のぼり制作の前に潜在顧客の取り込みのための情報発信を目的にホームページの制作を行い、また、公衆浴場利用の仕方の広報を目的に公衆浴場のサービスクリエーションとするDVDの制作を行った。のぼりの制作はそれに続く第3弾であり、これら3事業によって地域住民への公衆浴場の存在価値とサービスクリエーションの存在価値を情報的に浸透させている。

活動の成果

一般に、協同組合の資金力は十分とはいえない。組合の共同経済事業も費用をかけずに行わなければ

ならない。当組合は専門学校の協力を得るなどしてホームページ、DVDを安く制作し、今回ののぼりの制作も有名デザイナーにデザインを依頼するのではなく、広く一般に低額の賞金でデザイン公募し、すぐれたデザインののぼりの制作に成功している。組合員の知恵と行動の及ぶ範囲で外部資源をうまく使うことで資金的節約を行い、成果をあげている。また、組合員の浴場にのぼりを立てることによって、ホームページによる情報発信、のぼりによる視覚的発信という形が整い、ウェブを

見た人が公衆浴場に来て、その位置をのぼりで確認するという情報の流れが生まれた。それが集客効果につながる。



「ブランドマーク」デザインコンテスト審査風景



のぼり

神奈川県公衆浴場業生活衛生同業組合

住所：〒232-0022
神奈川県横浜市南区高根町2-10
設立：昭和34年2月
出資金：—
電話：045-231-3341
URL：http://k-o-i.jp
業種：公衆浴場業
組合員：227人
組合専従者：1人